

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第 10 号（通算 93 号）
令和 4 年 2 月 28 日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

刃物ものづくり教育



小刀学習「鉛筆削り」(裏館小学校)

「楽しむ（楽しもうとする）」

小中一貫教育推進課 指導主事 荒川 高明

令和 3 年度も残りおよそ 1 か月となり、年度末のまとめの時期となりました。各校でも今年度の取組の成果と課題を振り返り、次年度への改善を図ろうとしていることと思います。

今年度の教育現場における大きな変化として、タブレット PC 端末を活用した授業や学習活動への取組が挙げられます。先生方も様々な場面で新たな試みをしたことと思います。

昨年度のセンターだよりの巻頭言で、私は「まずはやってみる」を大切にして、タブレット PC 端末を活用した授業に取り組んでほしいということを述べました。実際に取り組んでみた先生方の感想はいかがでしたでしょうか。

今年度は夏季と冬季のオリンピックが開催され、多くの日本人選手の活躍を見ることができました。また、インタビュー等で、選手たちからは「楽しむ」という発言を多く聞くようになったことが印象に残っています。「時代や選手の意識が変化した」のかもしれませんが、「楽しむ（楽しもうとする）」ことを意識することで、選手たちは過度な緊張やプレッシャーを和らげようとしているのではないのでしょうか。

ICT を活用した授業づくりにおいても、「楽しむ（楽しもうとする）」ことができれば、「やらなければ…」という気持ちを和らげることにつながるかもしれません。「新しいことに専門家はいない」という言葉があります。先生方の様々なトライ＆エラーや同僚との情報交換が、先生方の授業をより洗練されたものにしていくと思います。

今年度の先生方の取組は、主体的・対話的で深い学びにつながる授業への貴重な一歩です。先生方の授業が充実したものになるよう、私達も支援してまいります。

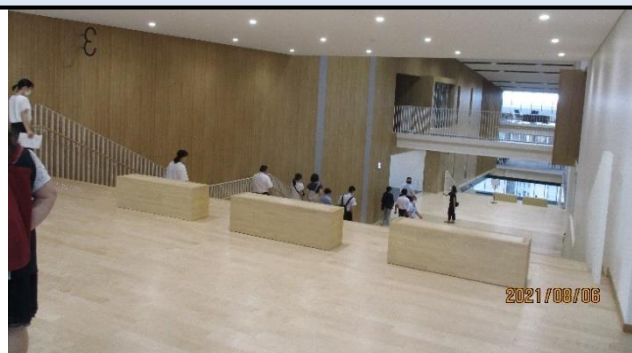
小中一貫教育の洗練・深化

～令和3年度小中一貫教育概要報告からの取組紹介～

もうすぐ3月になり、令和3年度も終わりを迎えます。毎年、学園の小中一貫教育推進リーダーから各学園の小中一貫教育取組概要報告をいただいています。報告の中では、各学園の創意工夫ある取組が進められていたことが分かります。

令和3年度の各学園の取組のいくつかを紹介します。

小中一貫教育推進会議 三条おおじま学園 夏の陣 於：三条市立大学



三条おおじま学園では、夏の小中一貫教育推進会議を三条市立大学で実施しました。市立大学では、講演を聞いたり施設見学をしたりしたと聞いています。以前、ただの郷学園でも諸橋轍次記念館で小中の先生と一緒に研修を受けていました。こうした活動を通して、各学園の小中一貫教育カリキュラムが練り直され、改善されると感じます。

開学したばかりの三条市立大学を始め、市の既存の施設について、是非、教職員や児童生徒から教育活動等で活用していただければと思います。

児童生徒の交流 三条学園「三中万屋プロジェクト発表会」リモートでつないで



第三中学校の様子



上林小学校の様子

今年度は、会の持ち方を工夫している学園が多かったです。なかなか対面で集まることが難しい状況ですが、オンラインによる会議や研修などが定着し始めた1年であったようにも思います。

三条学園では、中学2年生の総合的な学習の時間の発表をリモートで小学5年生が聞くという形の交流が行われました。児童生徒が発表に集中している様子が写真からも伝わってきます。小中、小中の交流を様々な形でつなぐ学園の工夫が見られました。

教科用特定図書・音声教材を御存知ですか？

音声教材とは、発達障害等により、通常の検定教科書では一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教材で、パソコンやタブレット等の端末を活用して学習する教材です。「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」（教科書バリアフリー法）に基づき、教科書発行者から提供を受けた教科書デジタルデータを活用し、ボランティア団体等が製作しています。文部科学省は、次の団体に調査研究を委託しており、その成果物である音声教材を無償提供しています。

教科書や副教材の文字がゆがんだり、にじんだり、重なって見えたり、鏡文字に見えたりすることで読みにくい児童生徒にとっては、読み上げる音声や目で文字を追える視覚的な教材が読みや理解の助けになることがあります。

また、三条市では、音声訳ボランティア団体である「虹の会」様、「つわぶき会」様の御厚意により、三条市独自の副教材等の音声教材サンプルも作成していただきました。「参考に見てみたい」「申請の方法を知りたい」「朝読書用や副教材の音声データがほしい」などの御希望があれば、どうぞ教育センターに御相談ください。（電話：45-1116）

音声教材製作団体の概要 （※文部科学省資料から引用）



公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会

(<https://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext.html>)

- 教材名：マルチメディアアデイジー教科書
- 主な特徴：音声、本文等テキスト、挿絵等の図版を含む。ハイライト機能あり。音声は肉声及び合成音声。視覚と聴覚から同時に情報が入り内容理解がしやすい。小学校・中学校の教科書を中心に作成。パソコンやタブレット端末にて利用可能。
- 利用者実績：14,211人（令和2年度）



茨城大学

(<http://apricot.cis.ibaraki.ac.jp/textbook/>)

- 教材名：ペンでタッチすると読める音声付教科書
- 主な特徴：ICT端末は使わず、紙冊子と音声ペンで使用する。紙冊子は通常の教科書と見た目がほぼ同じ。鉛筆等で書き込み可能。音声は肉声。小学校・中学校の国語を中心に作成。持ち運びやすく、小学校低学年でも簡単に一人で操作できる。音声ペンで文字をタッチして読むことで意識が紙面に向き、能動的な読書になる。
- 利用者実績：1,468人（令和2年度）



東京大学先端科学技術研究センター

(<https://accessreading.org/>)

- 教材名：AccessReading
- 主な特徴：本文等テキスト、挿絵等の図版を含む。読み上げは合成音声。文字の大きさ、色の変更、ハイライト機能など、アプリの機能で様々な調整が可能。小学校高学年・中学校・高校の教科書を対象。Word版とEPUB版の2種類を作成。iPad、Windows、Chromebook等のパソコンやタブレットで利用可能。
- 利用者実績：277人（令和2年度）



広島大学

(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/ujima/onsei/index.html>)

- 教材名：e-Pat（文字・画像付き音声教材）
- 主な特徴：サイズ等の変更が可能なテキストを合成音声で読み上げる。読み方を指定しているため正確に読み上げる。単語の辞書検索も可能。音声読み上げ中、同じページ番号の原本教科書画像データに表示切り替え可能なため、授業中、授業者の指示に対応しやすい。小学校・中学校・高等学校の教科書を対象。iPad、iPhoneなどのiOS機器にて利用可能。
- 利用者実績：188人（令和2年度）



NPO法人エッジ

(<https://www.npo-edge.jp/>)

- 教材名：音声教材BEAM
- 主な特徴：音声のみの教材（テキストや挿絵等の図版はなし）。音声は合成音声。小学校・中学校の国語・社会を中心に作成。スマートフォン、ICレコーダー等、mp3ファイルが再生可能な機器で利用可能。データ容量が軽く、操作が簡便。耳からの情報に集中できる。
- 利用者実績：260人 ほか団体申請23件（令和2年度）



愛媛大学

(<http://treasure.ed.ehime-u.ac.jp/unlock/index.html>)

- 教材名：UNLOCK
- 主な特徴：電子辞書は、音声、本文等テキストを含む教材（挿絵等の図版はなし）。音声ペンは、音声のみの教材（テキストや挿絵等の図版はなし）。音声は合成音声。音声の種類・再生速度を選択可能。電子辞書を用いてテキスト形式（.txt）ファイルを表示。パソコンやタブレット端末にて利用可能なPDF・EPUB版も提供。文字の大きさ等を変更可能。小学校・中学校・高等学校の教科書を対象。
- 利用者実績：106人（令和2年度）



◆文部科学省ホームページに、音声教材に関する Q&A も掲載されています。

7



文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

令和3年度 刃物ものづくり教育の推進

1 刃物ものづくり教育のねらい

「和釘をつくる」「小刀を使ってものをつくる」「砥石を使って包丁を研ぐ」「鋸、鉋を使って木材を切る、削る」などの活動を通して、児童生徒のものづくりに対する興味・関心を高め、その楽しさや素晴らしさを実感できるようにします。そして、三条の「ひと」や「もの」とふれ合い、関わり合う中で友達と活動することに喜びを感じたり、周りの人々に感謝したりする心を育むとともに、「ものづくりのまち三条」のよさを知り、「ふるさと三条」を愛し、誇りに思う児童生徒を育成します。

2 主な活動内容

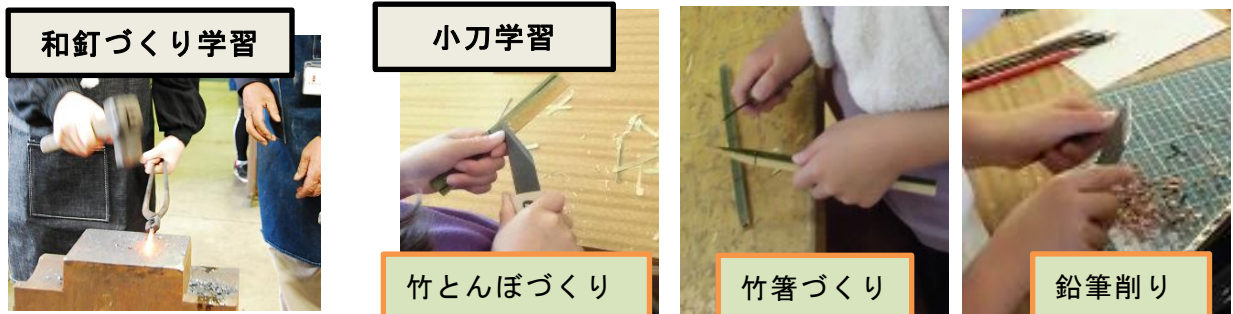
三条で育つ子どもたちに、ものづくり歴史と心を知ってもらいたいという願いから、下の写真のような体験学習を実施しています。金物の町三条の原点にふれることができます。今年度は、この四つの学習に110学級、児童生徒2,880人が参加しました。

事後のアンケートによると、参加した子どもたちは、「三条のものづくりはすごい」「職人さんの技術はすごい」との感想があり、教職員も「子どもたちにとって素晴らしい学びであった」「来年も続けてほしい」と記しています。キャリア教育の推進にあたり、刃物ものづくり教育は、大きな位置を占めています。次年度も、事前の学習を大切にし、より深い体験学習になることを期待しています。

(1) 小学校・義務教育学校前期

「和釘づくり学習」は、三条鍛冶道場を会場にして、三条金物の講話の後、火床（ほど）に鉄の材料を入れ、真っ赤になった材料を金づちで形を整え、「階折釘（かいおれくぎ）」を作ります。

「小刀学習」は、シルバー人材センターの指導委託で、小刀の基本的な使い方を学習し、「竹とんぼづくり・竹箸づくり・鉛筆削り」から一つを選択して体験します。



(2) 中学校・義務教育学校後期

「包丁研ぎ学習」は、シルバー人材センターの指導委託で、実際に砥石を使い、切れ味良い包丁になるよう研ぎます。最後に新聞紙で試し切りを行い、きれいに切れる新聞紙に、研ぎのすばらしさを実感していました。使った砥石は家庭に持ち帰り、学習の成果を生かします。

「木工用工具学習」は、三条市建築組合の指導委託で、鋸（のこぎり）でほぞを作ったり、鉋（かんな）で木を削ったりして、一流の職人技にふれて体験します。透き通るほど薄く削れた鉋屑は芸術品のようです。

